



第 3426 図



第 3427 図



ながはしすみれ

一名てんぐすみれ

*Viola rostrata Pursh*  
var. *japonica Ohwi*

新潟県を中心に比較的せまい範囲の低山、路傍に分布する多年生草本。花時には高さ10cm許で小さく叢生するが、花後に地上茎は長くのびて大株となる。葉は生長すれば広卵形で鋭尖頭、深心脚、有柄、径5cmに達し、表は平滑平坦、暗碧緑色、裏は淡色で覆々しく紫を帯びる。花時には少型で径2cm内外、櫛歯状の托葉あり、又前年の枯れた葉の残りがよくついている。花は4月頃、長い花梗で立ち、花径1.5cm許り、紅紫色、花弁は基部が爪部から折れて急に後へ反る傾向があり、唇弁の距は下から逆に立上り2-3cmに達する。柱頭は棒状。和名は長嘴スミレの意。又天狗の鼻にたとえた名。北米に基本種が隔離分布を示すは奇である。

ひめすみれさいしん

*Viola Yazawana Makino*

本州中部を横断して信州戸隠山から秩父、甲州のブナ帯に稀産する多年生草本。殆んど地上に露出して直立する地上茎の古い部分があり、年々その上に花と葉を出す。無茎種、葉は有柄、多少三角形を帯びた広卵形、長さ3cm内外で稍々硬い草質、緑色、鋭尖頭で深心脚、5月頃に葉と同長又はそれを越す花梗を出して純白の花を開く。花は径1cm程、花弁は楕円形で上部のもの反捲し、唇弁の距は短潤で質少しく硬く、中に入っている雄蕊の附属物は太くて軟骨質、本種はスミレサイシンと多少近縁、花が小形なので、この和名をつけた。近時宮地数千木氏により染色体数が近似のものより2本少ないことが明らかになった。

しこくすみれ

*Viola shikokiana Makino*

関東南部から以西のブナ帯附近の山地、林下の腐植の多いところに生える多年生草本。花時の高さ6cm内外、土中を細い地下茎が匍つてふえる。短かい根茎頭から1葉1花稀に2花をつける。葉は長い柄があり、葉身は長卵形で長さ3-5cm、有尾鋭尖頭、極めて深い心脚、暗緑色で、軟質、葉脈は特殊で側脈が大きく彎曲して、多少マイズルソウに似ている。5月頃に葉よりも長い花梗を立てて白花を開く。開花面は上を仰ぎ径8mm内外、各花弁はせまく、側弁には毛なく、唇弁の距は極めて短かい。和名は最初四国に発見されたのに因る。

らすばすみれ

*Viola blandaeformis Nakai*

本州中部の亜高山帯の多少湿気った処に生ずる多年生草本、花時に高さ7cm内外、無茎種、地下浅く根茎様の古き地上茎あり、また匍枝をも生じる。開花期には葉は伸び切っていない。葉は円形、深心脚で普通両脚片が接する位になる。全く平滑無毛、稍々黄ばんだ緑色、薄いが硬い感じの膜質、辺縁には立体的に上下に凹凸した低くて平らな疎の鋸歯があって特徴的。花は7-8月に咲く、径12mm内外、純白色で距は短かく2mm長、側弁には毛がない。花柱のさきは倒卵形に膨らみ柱頭は前方に軽く突出する。和名は薄葉スミレの意。

ひめきくばすみれ

*Viola ibukiana Makino*

中部地方の低山地の斜面に生ずる多年生草本。比較的稀である。附近に生ずる他の種との関係からみてシハイスミレとエイザンスミレ或は前者とヒゴスミレとの自然雑種と思われる、少しづつずれた形態ながら両種と共通の形質を示す。即ち葉は小形で卵形、表面が碧緑色、質々白斑を生じ光沢があり、花は紅紫色鮮麗なのは前者に似る。また葉に不規則な羽状欠刻を生じ、花後夏に入って長大な葉を出すのは後者に似ている。エイザンスミレと他種との雑種にはなおキクバスミレ(ヒカゲスミレとの雑種)などがあるが葉の欠刻の深い点で著しい。

げんじすみれ

*Viola variegata Fischer*

朝鮮、満洲、シベリアに多いが、日本では信州を中心とした地方の山地に自生がある多年生草本、比較的向陽地を好む。脈に沿って白斑の入った緑紫色のものは葉を賞美して庭園に植える。しかし野生のものは一般に淡色、但し葉裏と葉柄とは濃暗紅紫に染まり且つ全体に短毛を布く。葉は円形或は円卵形、深心脚、長2-4cm、4-5月頃に葉より高い花梗を出して鮮紅紫色の花を開く。花は径12mm許り、長さ1cmを超える長い距がある。花柱の先端は倒三角形、和名は源氏スミレ、最初信州に発見された時、葉裏の紫から紫式部→源氏物語とたどって命名したものである。



第 3429 図



第 3430 図

